

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立神戸高塚高等学校

活動の実際（単元名）

ボランティア実践 I の授業において交流及び共同学習を実施（全 3 時間）

「グラウンド・ゴルフ」演習（1 時間／3 時間）

「インスタントシニア」演習（1 時間／3 時間）

「レクリエーション」演習（1 時間／3 時間）

指導目標

地域交流及び高齢者理解を主体とした交流及び共同学習を実施する中で、学びを共有しながら聴覚障害者に対する理解を深める。また、授業を通して相互理解を深め、コミュニケーション力を養う。

事前学習

- ・聴覚障害について理解を深めるために、聴覚障害の外部講師から手話講習や講義を受ける。
- ・前回の交流を振り返り、各々が目的をもって関わられるようにする。
- ・事前にグループ分けを行い、コミュニケーション方法について周知しておく。
- ・「グラウンド・ゴルフ」については、生徒が説明できるように事前にルールを学ぶ。

学習活動（具体的な取組）

- 1 グラウンド・ゴルフ
- (1) 学習活動の説明
 - (2) 実践
 - ①グループごとに用具の準備
 - ②グループごとにゲームを行う
 - (3) 結果発表・振り返り
 - ①スコアの集計②表彰等③片づけ

- 2 インスタントシニア
- (1) 学習活動の説明
 - (2) ペアになり、交代で装具をつけて、校内を歩く。

- 3 レクリエーション
- (1) アイスブレイク 名刺交換ジャンケン
 - (2) グループエンカウンター
 - ①文章題 ②紙を積み上げる

支援と留意点

- ・ルールについては資料を配布する。
- ・グループに分かれて集合し、筆談を用いる等して、本校生が情報を伝えられるようにする。
- ・情報が伝わらない時は、教員に支援を求められるようにする。
- ・事前に資料を送付する。
- ・イヤーマフの着用については、生徒自身に選択させる。
- ・本校生が先に装具をつける。
- ・話し合いの場面では、ゆっくりと大きな声で話したり、筆談を用いたりするなど生徒各々が工夫できるようにする。

評価

- ・事前に筆談用の筆記具や手話一覧などの資料を各々で準備していたが、相手の実態に応じて、コミュニケーション方法を工夫していた。
- ・各々が交流及び共同学習の目標を持ちながら、意欲的に取り組むことができた。

活動の様子



グラウンド・ゴルフ



グループエンカウンター

事後学習

- ・活動の振り返りを各自レポートしてまとめる。

成果と課題

【成果】

- (1) 交流及び共同学習のための特別な時間割を組まず、通常の授業の中での実施
 - ①受け入れ態勢として無理がなかった。
 - ②事業担当者だけでなく、複数の教員で関わることができた。
 - ③本校生徒は見通しをもって活動することができた。
- (2) 校内の施設（食堂）を利用
 - ・食堂利用等を通して、授業外の様子を伝えることができた。
- (3) 演習やグループワークを通して、積極的にコミュニケーションをとり、相互理解を深めることができた。
- (4) 実際に関わる中で、伝え方や話し方（視線を合わせる・ゆっくりと大きな声で話す・身振りを交える）等の気づきを得ることができた。

【課題】

- ・両校の移動に 1 時間以上かかるため、交流回数を増やすには ICT の活用等、体制や内容の検討が必要。
- ・本校教員に手話の技量がなく、毎回相手校の教員に手話通訳をお願いしている。